

# 学校評価集計結果の分析・考察及び改善策の検討

令和2年度

## 3 学年

### 1 集計結果の分析・考察

#### ①学習指導・特別活動

3項目の質問に対して9割を超える高い評価をしているが、4～6人が授業や宿題等、行事等に対して評価が低い。ほぼ同一の人物である。教科全般であるのか特定の教科であるのか、また特定の行事なのかは不明だが本人達の意欲と教授する側の意欲が一致していないのではないかと考えられる。

#### ②生徒指導

2項目の質問に対して8割を超える高評価であるが、2割の生徒が公平感の欠如を感じているようである。教師側は、それぞれの個性を理解した上で指導を心がけていると考えるが2割の生徒に対しては理解しきれていない面があるのではないかと考えられる。

#### ③進路指導

2項目の質問に対してほぼ10割の生徒が高評価をしている。進路資料の充実感を4人が求めているようであるが常設している資料が不足していると考えよりもこれまでにない新たな進路先としての資料が必要になったのではないかと考える。

#### ④自分の主体性

7項目の質問に対して5項目は8割～9割の高評価をしているが、17人が4－3の質問で部活動や生徒会活動への積極性・協力性・向上心については「努めていなかった」との評価であった。3年生になり自分自身の進路も含めて準備する時間の増大やコロナ禍の中で制約された影響ではないかと考える。

そして、4－5の進路に関する積極的な相談に関しても17人（同一ではない）が「相談していない」との回答がみられた。自分の考えがぶれずにいたのではないかと、進路を模索する中で悩みを一人で抱え込んでいたのではないかと考える。

#### ⑤全体

「この学校に入学してよかったか」の1項目のみで93%が高評価であったが6人が良かったとは思えない回答になった。人間関係や目標の喪失感などが考えられる。

### 2 改善策及び今後の在り方・方向性等

①については、学習検討員会で各種の考査や模試などで低得点の生徒に対してその原因を聞いたり指摘したりすることは行っているが継続した指導と相談を繰り返す。

②については、担任だけでなく相談相手を多様化して情報を共有し理解に努める。

③については、アンケートを取るなどして生徒達が求める資料を調査していく。

④.⑤については、教育相談時に職員側が項目として必ず尋ねるという形式をとり、生徒理解を深める。